



書道展に作品展示

登場人物のイメージ表現

藤沢周平記念館
「作品題名書道展」

鶴中央高校生書道部が揮毫

鶴岡市立藤沢周平記念館 岡中央高校書道部による「作品題名書道展」が6日から廊下ミニギャラリーで鶴

鶴岡中央高校書道部による「作品題名書道展」



始めた。部員が藤沢周平作品を読んで感じたことをもとに作品タイトルを揮毫した13点が並ぶ。展示は23日（火）まで。書道展は地元の人や若者

に藤沢作品へ広く関心を持つてもらう目的で2015年度から始まり、今回で6回目。短編集を中心に作品を読み込んで感想文にし、登場人物の気持ちや人となりを想像して揮毫した。

5日は1年生部員4人が展示準備のために同館を訪問。全部員13人による揮毫を縦線に入れ、同館のスタ

ツフと共に並べていった。作中の激しい手合わせの荒々しさを表現した「桃の木の下」、用心棒をイメージして字をとがらせるように書いたという「用心棒日月抄」、意気地なしの性格の裏にある優しさや人を感じる気持ちや人を思う「意気地なし」など、部員の素直な感想が字に表現されている。

このうち、「だんまり弥助」と揮毫した1年生の齋藤光帆さん(16)は「弥助は人と話せないけど、最後の闘いでは勝つので『だんまり』を優しく書き、『弥助』は強たくて美しい人イメージして書いた。時代ものが好きでない人にも見てほしい」と話していた。

藤沢周平記念館にて、書道展による「作品題名書道展」が始まった。

荘内日報

掲載：令和3年3月7日

